

## 第95回例会

# 学齢期を超えた移民への言語教育を考える

## —アメリカのアダルトスクールの事例から—

■ 話題提供者 ■

高橋 朋子さん(近畿大学)

■ 日時 ■

2024年2月10日(土) 11:30~13:00

オンライン(Zoom)開催

※参加費無料 要事前申込

お申込は[こちら](#)から

※非会員の方もご参加になれます。



皆さんは、アメリカの「成人移民のための学校(Adult and Vocational School)」を知っていますか。無料で、いつでも、どこでも、誰でも参加できる移民のための学校です。ここでは、毎日多くの移民の人々が、英語や数学、職業スキル(コンピューターや美容師、自動車整備士など)、グリーンカードを取得するためのシチズンシップ講座などを受講しています。移民の人々がアメリカで生きていくためにさまざまな力をつけることを目的としており、ロサンゼルスにはオンラインスクールも含め、14校存在しています。が、残念ながら、その授業実践については、日本ではあまり広く知られていません。

本報告では、ロサンゼルスの「成人移民のための学校(Adult and Vocational School)」の中から、ESL クラス(Intermediate)の実践を紹介します。誰が、何を、どのように学んでいるのか、生徒たちはこの学校での学びをどのように捉えているのか、先生は授業を通して何を伝えようとしているのか、について半年間の授業記録から明らかにしたいと考えています。

日本では、学齢期を超えて来日した外国人が日本語を学習する機会は限られています。長く日本に住んでいても、日本語能力が十分でないために、家庭教育や職業生活、社会生活において問題を抱えている人も少なくありません。また日本社会で生きるために必要な情報にアクセスできていないこともあります。アメリカの事例から学べることがあるのではないのでしょうか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。